

コトル (モンテネグロ)

素材研究
(海外)



高い峰々が直接海に落ち込むため、急峻な斜面にも建物が並びます



17世紀に建てられたゴシック・バロック様式の時計塔



建物の直ぐ裏に急な崖が迫っています



宗教画が並び教会の内部



コトル湾に注ぎ込む川を利用して築かれた城塞

家々のオレンジ色の屋根とエメラルドグリーンのアドリア海が描く見事なコントラスト

自然と歴史がもたらした独特の魅力 アドリア海で異彩を放つ世界文化遺産

アドリア海が複雑な入り江を形成して陸地に入り込んでいるモンテネグロのコトル湾。その深奥部に位置するコトルは古代ローマに起源を持ち、中世の薫りを色濃く残す世界文化遺産の町です。奇跡的とも言える地形やカトリックとギリシャ正教会の文化圏が交わる歴史は、コトルに独特の魅力をもたらし、異彩を放つ存在としています。

地形が醸し出す落ち着いた雰囲気

モンテネグロの沿岸部は、バルカン半島の北西から南東へ延びるディナール山脈が海岸線と並行に連なり、高い峰々が直接海に落ち込んでいます。標高2000メートル級の山々に囲まれたコトル湾は、アドリア海から遠く隔てられた入り江のため、海面は山中の湖かと思いがうほど鏡のような静寂さです。アドリア海の港湾都市に数えられながら、コトルが他の港と異なる落ち着いた雰囲気を醸し出しているのは、こうした自然の地形による恵みにほかなりません。

古代ローマにまで歴史をさかのぼるコトルは、ビザンチン帝国やハンガリー王国に支配されつつも一定の自治を保って繁栄し、14世紀にはセルビア王国のもとで最盛期を迎えた後、ベネチアの支配を受けた約400年にわたる海運貿易の拠点として栄えました。

カトリックとギリシャ正教会の文化圏が重なり合うコトルには、12世紀に建てられたロマネスク様式の「聖トリフォン大聖堂」やロマネスク・ビザンチン様式の「聖ルカ教会」、17世紀建造のゴシック・バロック様式の「4階層造りの時計塔」などがあります。

地球規模でも稀有な歴史文化資源

山の麓に築かれた城壁の中にあるコトルの町は、端から端まで歩いて20分ほどの広さで、道は細く迷路のようですが、車は入ることができないため、静かで空気もきれいな中、ゆつくりと散策を楽しめます。

18世紀に建てられたバロック様式の建物を活用した海洋博物館では、航海図や船の装飾品など様々な展示を見ることができ、町を囲む城壁はベネチアの支配時代に建設されたもので、家々の屋根もオレンジ色に統一してあるため、町を見下ろすことが出来る丘の上から眺める風景は、エメラルドグリーンのアドリア海と見事なコントラストを描き出しています。

コトルの町は、奇跡的な地形的景観と中世の要塞的町並みが、地球規模でも稀有な歴史文化資源を形成しており、1979年にはいち早く世界文化遺産に登録されました。日本人が数多く訪れているドブロブニクなどアドリア海沿岸の都市から日帰りで訪れることも可能なコトルは、多くの旅行者客にぎわう都会の喧騒から逃れられるオアシスのような存在です。